



# あみチャレ

チャレンジ64

最近読んだ本から（「私たちはこどもに何ができるのか～非認知能力を育み、格差に挑む」ポール・タフ著）



<ul style="list-style-type: none"> <li>○自制心</li> <li>○好奇心</li> <li>○楽観的なものの見方</li> <li>○誠実さ</li> </ul>	 <p>非認知的能力 =子どもたちの将来の成功へ貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○困難に立ち向かう力.Guts（度胸）</li> <li>○失敗してもあきらめずに続ける力 Resilience（復元力）</li> <li>○自分で目標を立てる力 Initiative（自発性）</li> <li>○最後までやり遂げる力 Tenacity（執念）</li> </ul>
--	---	--

➡ 非認知能力は環境の産物である（教えて身に付くものではない）

向上させる環境	阻害する環境	効果があまり無いと思われる取組	お笑いコンビ「ティモンディ」の高岸さんがいつも言っている「やれば、できる！」みたいなものですね。
<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛着（アタッチメント）</li> <li>○動機付け（自律性、有能感、関係性）</li> <li>○教師</li> <li>○心のありよう（マインドセット）</li> <li>○人間関係</li> <li>○協同的な学習、問題解決学習</li> <li>○ディープラーニング（より深い学習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トラウマ</li> <li>●虐待</li> <li>●ストレス など</li> </ul> <p>心のありよう（マインドセット）とは →子どもたちの物事に対する姿勢や自己認識</p> <p>たとえば・・・</p> <p>①私は、この学校に所属している②私の能力は努力によって伸びる ③私はこれを成功させることができる④この勉強は私にとって価値がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△厳しい罰則</li> <li>△報酬を与える（インセンティブ）</li> </ul>	

印象に残ったエピソード1

印象に残ったエピソード2

<p>【生徒への作文に教師が手書きのふせんを貼る。】</p> <p>Aグループ：あたりまえのつまらないコメントを書く。</p> <p>Bグループ：「作文にコメントを書き込んだのは、君に大いに期待しているから、そしてそれに君が答えられると思ったからです。」と書く。</p> <p>→Aグループの生徒の17%、Bグループの生徒の72%が作文を書き直して、再提出した。（アメリカの実験）</p>	<p>【キラボ・ジャクソンの研究】</p> <p>非認知能力の向上を示す尺度を考案。非認知能力の尺度を確実に上げる教師が一定数いる。（標準テストを確実に上げる教師に比べて評価されていないらしい）</p> <p>上記のような教師が教室で作り出す環境が、生徒の決断を助け、人生に大きな意味を持つプラスの変化を与えた。</p>
--	--

## 私たちにできること（解決策）

- ①政策を変える
- ②行動を変える
- ③考えを変える

子どもたちの人生の軌跡は、大人にとってはたいして重要でも無いように見える些細なことから変わり始める。親の声の調子。教師が付せん紙に書くメモ。数学の授業のやり方。難題に直面した子どもの話を聞くために、メンターやコーチがほんの少し余分な時間を取る。こうした個人的な行動が強力な変化を生むこともある。

（本文より引用）

<p>（この本を読んでみて）</p> <p>書店の教育コーナーに行くと非認知能力の内容の本が最近よく出版されています。私も非認知能力は非常に大切と思っています。ただ「非認知能力が唯一絶対な方法である」との論調に少し違和感があります。</p> <p>数値で測定ができるような学力ももちろん大切だと思います。新学習指導要領にある「知識・技能」「学びに向かう力・人間性」「思考力・判断力・表現力」と非認知能力をバランスよくつけることが大切と考えています。</p>	<p>（おまけ）</p> <p>「ケーキの切れない非行少年たち：宮口幸治著」を読んで</p> <p>「物事の良い悪いを判断する力が育っていない」のではなくて「そもそも目の前に起こっている事実や出来事を正しく認知していないのでは？」</p> <p>上記の疑問を持った著者（元精神科医）が、非行少年に違うアプローチから更生をはかるという話です。</p> <p>医療少年院と公立小学校に共通項は無いのですが「認知を疑ってみよう」「認知機能を高めよう」という筆者の主張は心に残るものがありました。</p>
--	--